



盧溝橋事件 83周年

写真は「盧溝橋」と「橋の欄干を飾る獅子像」(撮影・村瀬守保 1937年10月)

もうひとつの七ター1937年7月7日

1931年9月18日に中国・瀋陽郊外の鉄道線路を日本軍が爆破し、これを中国軍のしわざとした柳条湖事件をきっかけに日本は中国東北部を占領し、事実上自分たちが支配する「満州国」をつくりました。

そして1937年7月7日、中国・北京郊外の盧溝橋付近で夜間演習中の日本軍が中国軍に攻撃されたとした盧溝橋事件をきっかけにして、日本は1945年の敗戦まで中国全土への侵略戦争をおしすすめ、南京大虐殺、731細菌戦部隊、戦時性暴力事件、燼滅掃討作戦(三光作戦)、強制連行・強制労働事件、重慶などへの無差別爆撃、遺棄毒ガス事件をはじめとした加害行為を重ねて、言語に絶する苦しみを中国の民衆に与えました。

写真が伝える侵略戦争の真実



日本軍の自動車部隊の一員として、2年半にわたって中国各地を転戦した村瀬守保さんが遺した写真は、全国各地で展示され、人間が人間であることを許さない戦争の実態と本質を伝え広げています。

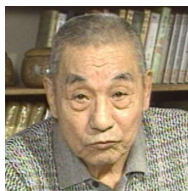


左から「上海攻略戦」「南京事件」「日本軍慰安婦」「国防婦人会」「正月を迎え散髪する日本兵」「試し斬りされた中国人の遺体」

元日本軍兵士の証言

泥にまみれた靴で

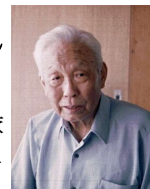
湯口知正さん(元特務機関員)



兵隊に「やれ」と。「お前らやれないのか」と。「この夫婦は、遊撃隊か連絡員かなんだ」と。「今ここで殺しておかんことには、今後どのようなことになるかも知らん。しかも、この一番安全な、保安も保たれている安全が保たれている、こういう地域内にも八路軍がもぐり込んで来るんだから、油断も隙もないんだから、とにかくこれは殺せ」と。「ましてやこの子どもが成長した暁には、必ず我々に歯向かってくることは、火を見るよりも明らかなんだ」と。「今ここでこれを殺さんことには、後々のためにならんから殺せ」って言ったって、兵隊さん、銃も向けなきゃ銃剣も向けない。「ええい、殺すのはこうやって殺すんだ」と言って私は、赤ちゃんの、胸の上に、醜く、泥でまみれた靴で、…踏み殺しました。(日中友好協会企画・DVD「泥にまみれた靴で」から)

毒ガスを利用して大量に殺害

金子安次さん



昭和17年8月頃です。八路軍がかなり部落に入っているから、一中隊と二中隊合同でその部落を攻撃しろという命令をもらいました。中国の部落には、必ずレンガや泥の高さ4~5mの城壁があり、周りに壕が掘ってある部落もありました。私たちは攻めたのですが、八路軍の抵抗が激しくてやむを得ず、長さ1m位の迫撃砲に針の付いた爆弾を入れて20~30発打ち込みました。それはガス弾、催眠ガスだったのです。激しかった八路軍の抵抗がばたつとやんで、右側の入口から八路軍、女性、農民が口を押さえながらぞろぞろ逃げてくるのです。女性、子ども、老人も殺してしまえという中隊長の命令で、機関銃で撃ち殺しました。そのようにしてガスを利用して大量の中国人民を殺してまいりました。(日中友好協会編・日中友好ブックレット3「日本は中国でなにをしたか—侵略と加害の歴史」から)

日本中国友好協会は「国家安全法」をめぐる香港の情勢を憂慮して、理事長談話を発表しました。以下は談話の概要です。全文をお読みになりたい方は、下記の日本中国友好協会または連合会・支部にお問い合わせください。

全人代での「国家安全法制」決定に関し、中国政府による香港基本法と「1国2制度」の原則遵守を求める(概要)

5月28日、全人代で香港の「国家安全法制」(以下「安全法」)が採択されました。逃亡犯引渡し条例に反対する抗議行動を、中国政府は外国勢力の関与による不法な組織的テロ行為、国家分裂活動と見なし、安全法が不可欠としています。国際世論は強く反発し、香港では激しい抗議行動が繰り返される事態に至っています。

植民地香港を平和的に、繁栄を維持

しつつ返還させるため、中国はイギリスとの協定で「1国2制度」「資本主義50年不変」を世界に約束しました。1997年の返還式典にはアメリカを含む世界各国が招待され、香港の繁栄を共に慶祝しました。仮にも「1国2制度」が崩壊すれば、香港の繁栄と香港市民の将来だけでなく、中国に対する世界の信頼は奪われることになるでしょう。

返還時には香港独立や革命を主張する勢力は皆無でしたが、現在は香港を脱出する市民も増え、全人代決定が実行されればその数が急増することが懸念される事態となっています。あらゆる

る暴力に反対する立場に立つ者として、冷静に市民との対立を回避し、基本法と「1国2制度」の原則を厳守することこそが香港の繁栄維持に向けての唯一の解決策と考えます。

「1国2制度」の破綻は中国本土と香港両市民間の信頼の醸成を妨げ、日本における反中感情をさらに高めることを強く懸念します。中国が、平和を願う大国としての責任を果たすことを心から願い、力ではない平和的な話し合いによって事態が打開されることを強く求めるものです。

日本中国友好協会

☎111-0053 台東区浅草橋5-2-3 鈴和ビル5階

☎03-5839-2140 FAX03-5839-2141 <http://www.jcfa-net.gr.jp>

連絡先